

B 001-6 肺血栓塞栓症予防管理料

肺血栓塞栓症を発症する危険性が高いものに対して、肺血栓塞栓症の予防を目的として、**必要な機器又は材料を用いて計画的な医学管理を行った場合**

所定点数 305点

〔肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドラインより〕

保険請求が認められているリスク

表1 リスクレベルと静脈血栓塞栓症の発生率、および対応する予防法

リスクレベル	下腿 DVT (%)	中極型 DVT (%)	症候性 PE (%)	致死性 PE (%)	推奨予防法
低リスク	2	0.4	0.2	0.002	早期離床および積極的な運動
中リスク	10~20	2~4	1~2	0.1~0.4	ESあるいはIPC
高リスク	20~40	4~8	2~4	0.4~1.0	IPCあるいは低用量分画ヘパリン
最高リスク	40~80	10~20	4~10	0.2~5	(低用量分画ヘパリンとIPCの併用) あるいは (低用量分画ヘパリンとESの併用)

(低用量分画ヘパリンとIPCの併用)や(低用量分画ヘパリンとESの併用)の代わりに、用量調整分画ヘパリンや用量調整ワルファリンを選択してもよい。

DVT: 深部静脈血栓症, ES: 弾性ストッキング, IPC: 間欠的空気圧迫法, PE: 肺血栓塞栓症

表2 静脈血栓塞栓症の付加的な危険因子の強度

危険因子の強度	危険因子
弱い	肥満 エストロゲン治療 下肢静脈瘤
中等度	高齢 長期臥床 うっ血性心不全 呼吸不全 悪性疾患 中心静脈カテーテル留置 癌化学療法 重症感染症
強い	静脈血栓塞栓症の既往 血栓性素因 下肢麻痺 下肢ギプス包帯固定

血栓性素因: 先天性素因としてアンチトロンビン欠損症、プロテインC欠損症、プロテインS欠損症など、後天性素因として、抗リン脂質抗体症候群など。

危険性の程度	一般外科・泌尿器科・婦人科手術	整形外科手術	産科領域
低リスク	非大手術: 60歳未満 大手術: 40歳未満	上肢の手術	正常分娩
中リスク	危険因子あり 非大手術: 60歳以上 大手術: 40歳以上	脊椎手術 下肢手術 など	帝王切開術: 高リスク 以外
高リスク	大手術: 40歳以上の がん	人工股関節置換術 人工ひざ関節置換術 股関節骨折手術 など	帝王切開術: 高齢肥満 経膈分娩: 静脈血栓塞 栓症の既往、あるいは 血栓性素因
最高リスク	大手術: 静脈血栓塞栓 症の既往、あるいは血 栓性素因	高リスク+静脈血栓塞 栓症の既往、あるいは 血栓性素因	帝王切開術+静脈血栓 塞栓症の既往、あるい は血栓性素因

(静脈血栓塞栓症予防ガイドラインより)

〔指導内容・診療録記載〕

必要な機器又は材料を使用

計画的な医学管理の実施

留意事項

該当症例: ⑫ ⑬ ⑭ ⑯ ⑰ ⑱

- リスク評価の記載を確認出来ず、保険請求が認められている範囲がありますので評価の記載をお願いします（医事請求は伝票運用）
- フットポンプ、弾性ストッキングの装着・脱着が確認出来ず⇒診療録等に記載をお願いします